

# 秋田市の冬期間における乗合バス輸送サービスの現状と課題に関する調査

## 現状

- ・地域特性として夏季・冬季での乗合バス利用実態が異なっており、特に冬季の乗 継環境やダイヤ調整について課題がある。
- ・課題と方策の検討のため、中央部における冬季の乗合バスの利用実態調査が必要



冬季における市中心部のバス利用実態調査・遅延発生状況調査・バス利用者・市民意識調査を実施し、課題と改善方法を検討

## 調査結果概要

### 【冬季のバス利用実態・遅延発生状況調査】

- ◆ 長距離路線を中心に最大30分程度の遅延が発生しており、改善方策が必要
- ◆ 調査結果によれば、冬季にバス利用が増えるが、その約半数は自転車からの転換
- ◆ 改善要望として、定時性をあげるための渋滞対策を進めて欲しいとの意見が多い

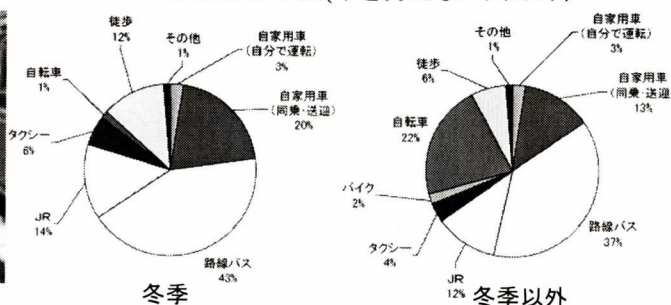
### 【市民の路線バスに対する意識調査】

- ◆ 市民アンケートによれば、冬季は「自転車利用が大幅減、自家用利用・バス利用ともに増」との結果となった。バス利用率は、冬季以外が18%なのに対し冬季が20%とわずかながら増加している(車を所有していない人に限定すると冬期以外が37%→冬期が43%)
- ◆ 冬季にバス利用が増える理由は、「寒くて自転車が使えない」や「車・自転車の運転が危険」との回答が多い。一方、冬季にバス利用が減る場合の理由は、「道路が渋滞しバスが遅れるから(29%)」を「バス停・駅まで歩くのが大変だから(31%)」が若干上回っており、公共交通の利用促進のためには、渋滞対策とともに、歩道等を含めた除排雪が課題であると判断される。
- ◆ 冬季の鉄道に対するサービス改善要望は少ないが、バスに対しては、「(遅延対策として)始発の繰り上げや終発の繰り下げ」が出ている。また、受益者負担のあり方に対しては、「現在の負担で現在のサービスを維持」が72%と多数。

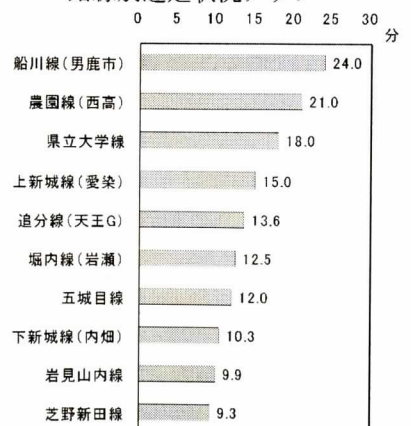


調査状況

季節別移動手段(車を持たない人のみ)



路線別遅延状況グラフ



以上の調査結果と、夏期の利用実態および市民意識調査をあわせ、季節の違いによる利用実態の変化や乗り継ぎ環境の現状を把握し「秋田市地域公共交通政策ビジョン」策定のための資料とする。

※なお、本調査は平成19年度公共交通活性化総合プログラムとして、東北運輸局が主体となり調査を行った。



## 1 調査目的

近年、登下校中の児童・生徒が巻き込まれる事件が多発し、安全確保に向けて全国的にスクールバスの導入が進められている。

本調査は、登下校時の安全性の向上や、マイカー送迎からの転換による冬季を中心とした交通渋滞の緩和を図るため、路線バス等を活用したスクールバスの導入の可能性を検討する。

## 2 調査フロー

### 通学方法の実態調査

#### (保護者へ全校アンケート調査)

市立の全小中学校生の保護者へ通学方法・時間や路線バス利用意向等をアンケート調査により把握

### モデル学区詳細調査

上北手小学校と雄和中学校をモデル校とし、詳細アンケートで、通学経路等の詳細な通学実態を把握

### 路線バスを活用した

#### 通学方法の検討

詳細アンケート結果や路線バスの運行状況等から、バスを活用した通学方法を検討

## 3-1 調査結果 (全校アンケート)

### 通学方法とバス利用の実態について

- ・通常期の登校は小学生の92%が徒歩であるが、中学生では76%に低下し、自転車が15%に高まる
- ・マイカー送迎は小学生4%、中学生7%、公共交通機関の利用は小学生3%、中学生2%と低い
- ・**冬季では中学生で自転車の利用がほとんどなくなり、マイカー送迎が19%に高まる**
- ・小学生の70%、中学生の58%が学校から2km以内に居住しており、4km以上離れて居住する小学生は4%、中学生は10%存在する(図-1)
- ・路線バスで通学する理由で割合が高いのは通学距離が長い事であり、利用しない理由と表裏する(図-2、3)
- ・小学生ではバスを利用する理由として「犯罪・交通安全上安心」が多く挙げられており、通学時に対して不安を抱いている(図-2)

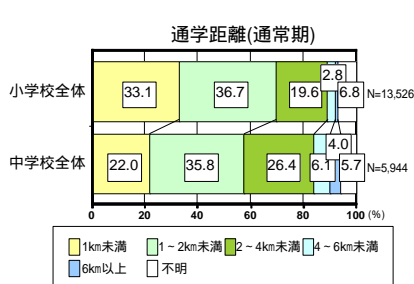


図 - 1

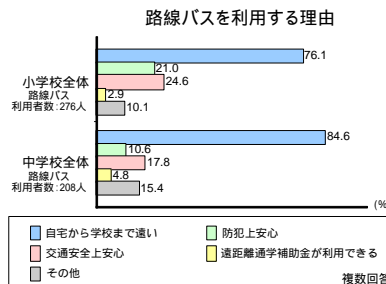


図 - 2

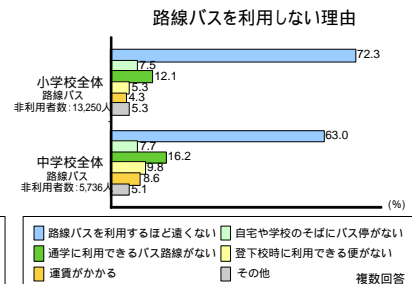


図 - 3

### 路線バスの通学への利用意向

- ・年間を通して路線バスによる通学を望む意見は小学生で4%、中学生で6%(図-4)
- ・**冬季を中心に、気象条件や路面状況が悪化する時期のバス利用意向は高い**(図-4)

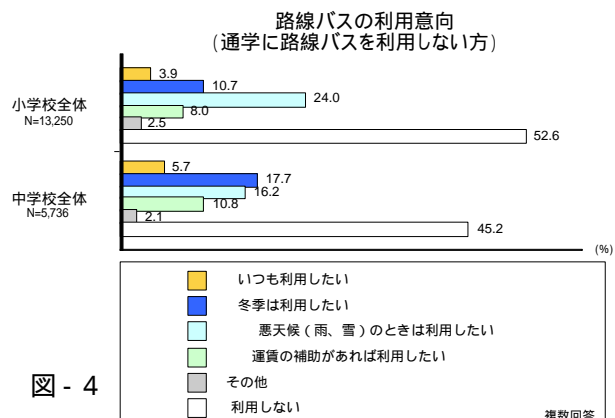


図 - 4

### 3-2 調査結果（モデル校詳細アンケート）

#### 通学の実態とバスの利用意向

	上北手小学校	雄和中学校
通学状況	<p>・学校から 2km 以内に居住する児童は 17%と、小学校平均 70%を大きく下回る</p> <p>通学距離(通常期)</p> <p>上北手小学校: 4.4, 12.5, 66.2, 11.0, 5.9 (N=136)</p> <p>小学校全体: 33.1, 36.7, 19.6, 2.8 (N=13,526)</p>	<p>・62%の生徒が学校から 4km 以上離れて居住しており、中学校平均 10%を大きく上回る</p> <p>通学距離(通常期)</p> <p>雄和中学校: 1.9, 13.0, 20.8, 19.5, 42.9, 1.9 (N=154)</p> <p>中学校全体: 22.0, 35.8, 26.4, 6.1, 5.7 (N=5,944)</p>
	<p>・冬季のマイカー送迎の割合が 54%と高く、子供会を中心にジャンボタクシーを利用することも日常化している</p>	<p>・マイカー送迎が年を通して最も多い通学手段となっており、特に冬期はその傾向が強くなり、61%がマイカー送迎となる</p>
路線バスの利用意向	<p>・バスによる通学への関心は高く(冬期 40%)、<b>通学に便利なバスができた場合、50%が利用を考えている</b></p> <p>登下校にあわせた時間やルートを設定した一般の乗り合い路線バスが運行された場合、お子さんの通学に利用させますか？</p> <p>未回答: 0.9%</p> <p>利用したくない: 49.1%</p> <p>利用したい: 50.0%</p> <p>N= 110</p>	<p>・バスによる通学への関心は高く、<b>通学に便利なバスができた場合、63%が利用を考えている</b></p> <p>登下校にあわせた時間やルートを設定した一般の乗り合い路線バスが運行された場合、お子さんの通学に利用させますか？</p> <p>未回答: 3.1%</p> <p>すでにスクールバスを利用しているため、利用したくない: 10.4%</p> <p>利用したくない: 22.9%</p> <p>利用したい: 63.5%</p> <p>N= 96</p>

この調査で得られた資料とそれに基づく検討結果を、平成 20 年度に策定を予定している「(仮称)秋田市地域公共交通政策ビジョン」のための資料として活用する

なお、本調査は文部科学省の平成 19 年度「地方再生モデルプロジェクト」の補助金を活用して、秋田市教育委員会の協力を得て実施した